

---

# 頭の中にはパラレルワールド！？

はりおー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

頭の中にはパラレルワールド！？

### 【Nコード】

N5516BA

### 【作者名】

はりおー

### 【あらすじ】

目を開けたらそこには見知らぬ世界が。

## 見知らぬ世界へ

「なんじゃこりゃあああああ！」

目の前の光景を見て思わず叫んでしまった。

上を見上げれば燦々と輝く太陽と透き通るような青空、前を見れば地平線の彼方まで広がる青々とした草原。そして遙か遠くで戯れ合う見たこともない生物たち。

まるでゲームの世界のようだ。

「なんで俺はこんなところにいるんだ・・・？」

「・・・俺は自分の部屋で寝ていたはずなのに。」

今の状況を確認しようと思は立ち上がろうとした。しかし、体が思ったよりも重く上手く動かせない。そこで彼がやっと自分の身に纏っている物に気が付く。

「ん？・・・なんで俺は鎧なんかを着てるんだ？」

彼 友瀬 悠司 はこの世界に来るまではいたって普通の学生だった。

髪は黒で短髪、身長は170を少し超えたくらい。顔は切れ長の目に通った鼻筋。パーツのバランスも悪くはない。成績は中の上辺りで運動神経も悪くはない。どちらかといえばできない方だが。

というわけで、そこそこモテていたりするわけである。

そんな状態だったので将来の事など考えるわけも無く、ただ学園生活を満喫していた。・・・はずだった。

(夢・・・だよな・・・?)

悠司は考えた。

「・・・痛つ。」

自分の右頬をつねってみる。

すると、そこには感じるはずのない痛みを感じた。

「なんで痛みを感じるんだ？これは夢じゃないってのか？」

悠司が混乱しそうになっていると、

「さつきから独り言が多いけど、どうしたの？」

と、後ろから女の声がした。

悠司はすぐさま振り返るとそこには見知った顔があった。

「京香・・・京香じゃないかっ！なんでお前もここにいるんだ？」

「なんでって・・・。あんたは自分の任務も忘れたの？」

彼女は呆れたように言った。

「任務・・・？お前、京香だよな？」

「そうだけど・・・もしかしてあんた私の顔まで忘れたっていうの？」

彼女は心底呆れたようだった。

彼女 二見ふたみ京香きょうか は悠司の幼馴染。悠司とは同じ学校に通っている。

ピンクのポニーテールが特徴で若干たれ目である。身長は160前後だろうか。  
家が隣で子供の頃から付き合いがあり、なにかと世話になったりしている。

「はあ・・・仕方ないから任務の説明してあげる。もう言わないからちゃんと聞くこと。」

そういつて彼女は任務について話し始めた。

「東の王国で最近作物が食い荒らされるって事件が起きてるのは知ってるわよね。その被害範囲が日に日に増えていつているの。それを見かねた王様が私達のギルドに調査を依頼してきたわけ。で、調べたら森に住むあるモンスターの仕業だっということが分かって、その討伐を私達が命じられたの。分かった？」

「はい・・・多分。」

（「ギルドって？」とか「モンスターなんているの？」なんて言えないよな・・・。）

「それじゃ、十分休憩したことだしそろそろ行くよ。」

彼女は立ち上がりながら言った。  
悠司もそれに合わせて立ち上がった。

「あんだ、剣忘れてるわよ。」

「え？」

彼女が指差した方を見ると自分の背丈の半分以上はある大きな  
剣が置いてあった。

(うげっ……こんなの持ってくるのか。)

「はぁ……ホントにこんなんで大丈夫なのかしら。先が思いや  
れるわ。」

こうして二人は森へ向けて歩きだすのだった。

## 見知らぬ世界へ（後書き）

表現力や語彙力なんかが乏しいのでつまらない小説になるかと思いますが、とりあえず完結できるように頑張っていきたいと思います。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5516ba/>

---

頭の中にはパラレルワールド！？

2012年1月15日01時53分発行